



グランセラトップ 2液水性



# GRANCERA TOP

水性 2 液セラミックハイブリッド超高耐候超低汚染無機系塗料

## グランセラ<sup>®</sup>トップ 2液水性

旧品名: パーフェクトセラミックトップ G

美しい  
つや感

高い  
耐久性

安心の  
超低汚染性

防藻・  
防かび性



**NIPPON PAINT**

Basic & New



住まいの「美観」をまもり、「寿命」を延ばすハイグレード塗料

## グランセラ トップ®2液水性

旧品名: パーフェクトセラミックトップ G

ラジカル制御技術とセラミックハイブリッド技術を融合。フッ素樹脂塗料を超える高耐候性、超低汚染性を誇るハイグレードの外壁用塗料です。

期待耐用年数

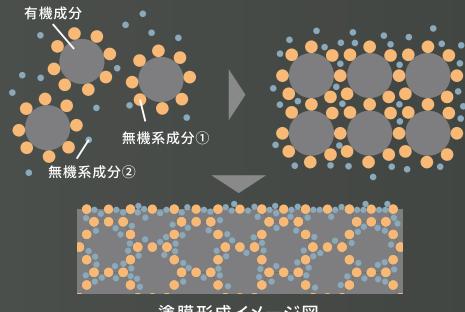
最大20年\*

\*期待耐用年数は塗膜劣化が進行し、塗膜寿命により下地保護機能が期待できなくなると予想される目安の時期であり、保証値ではありません。  
また、期待耐用年数は一般都市部住宅の東西面において標準的な環境・塗装条件で施工された場合を想定しています。その他詳細はカタログ裏面の「期待耐用年数について」をご確認ください。

## セラミックハイブリッド無機系塗料とは？

無機塗料は紫外線に強く、高い光沢と燃えにくさが特長ですがその反面、塗膜が割れやすいという性質がありました。そこで無機の硬い部分（無機系成分①）と有機の柔軟部分をハイブリッド化することで「弾性」の性能が発揮されます。

さらに表層に配向した無機系成分②により、超低汚染性を発揮します。



塗膜形成イメージ図

## 独自技術で紫外線から住まいをまもる、非常に優れた耐候性塗料

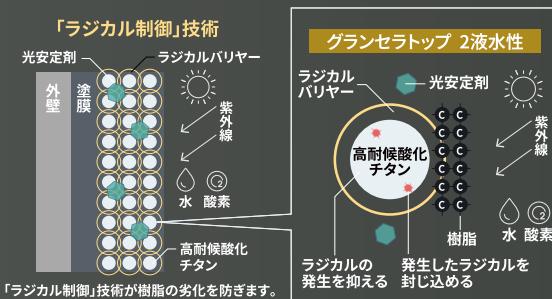
一般的な塗膜は、酸素や水とともに紫外線があたると顔料の主成分である酸化チタン内からラジカルが発生し、塗膜劣化を誘発します。そこで日本ペイントは、ラジカル発生を抑え、かつ発生したラジカルをバリヤー内に封じ込める高耐候酸化チタンの活用技術を開発。さらに光安定剤の併用により、ダブル効果で優れた耐候性を発揮します。

### ●上塗り塗料の耐候性のグレードレベル

塗料の耐候性には様々なグレードがありますが、ラジカル制御形塗料は住まいを長持ちさせる品質・性能をコストパフォーマンス良く享受できるのが魅力です。グランセラトップ 2液水性はフッ素を超える高耐候性。長期的に見て塗装回数が減り、お住まいのメンテナンス費用削減につながります。

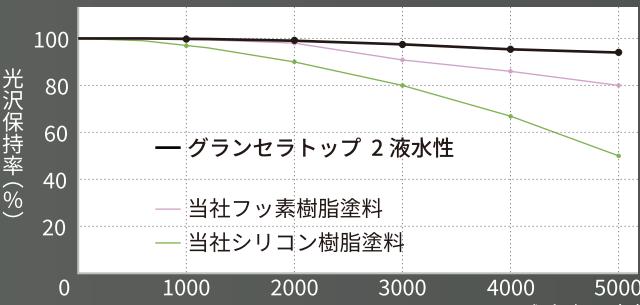
グランセラトップ 2液水性は、促進耐候性試験において優れた耐候性を示しました。

### グランセラトップ 2液水性 ラジカルバリヤーと光安定剤によるW効果



### 促進耐候性試験

試験方法：キセノンランプ式試験



### ■上塗り塗料の耐候性のグレードレベル

### GRANCERA SERIES



\*上記の数値は実測値であり、性能を保証するものではありません。



## “5つの特長”で、外壁を美しくまもります



### 1. 美しいつや

グランセラトップ 2液水性は、専用中塗りと上塗りの高いレベルング性により、つやが優れています。またつや有り・7分・5分・3分つや有り、およびつや消しと幅広く対応が可能です。

#### 理想のつやをお選びいただけます

つや有り	5分つや有り	つや消し

※上記はなみがた仕上げの塗膜画像（色はND-184）です。  
仕様はパーエクトフィラー+グランセラトップ 2液水性中塗+グランセラトップ 2液水性です。

### 2. 超低汚染性

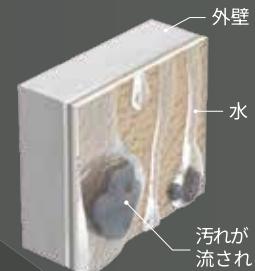
グランセラトップ 2液水性は、「超低汚染性」（親水性機能）によって、建物外観に付着した汚れを雨とともに洗い流し、美観を維持することができます。

#### 塗膜と汚染物質のモデル図

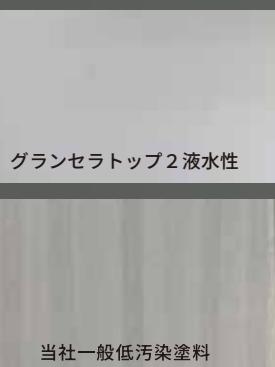
##### グランセラトップ 2液水性

親水性膜

水に濡れやすい塗膜



#### 防汚性試験



試験方法：当社規格による雨だれ強制汚染試験（東京での暴露6か月経過時写真）

### 3. 強力防藻・防かび機能

従来オプションであった強力防藻・防かび機能が標準搭載になりました。藻・かびの発生を抑制し、建物の美観と清潔な環境をまもります。

親水性が高いと汚れが落ちやすい

### 4. 透湿性

透湿性があるため塗膜の膨れやはく離を抑制します。

### 5. 弹性仕様

弾性タイプの主材（下塗り）と組み合わせることで、外壁のひび割れに追従でき、各種弾性形塗料の塗り替えに適応できます。

#### 塗料性状・荷姿

塗料名	色相	つや	容量	ポットライフ
ニッペ グランセラトップ 2液水性	各色	つや有り、7分つや有り、5分つや有り、3分つや有り、つや消し	15kgセット(塗料液14kg・硬化剤1kg)、4kgセット(塗料液3.73kg・硬化剤0.27kg)	6時間以内(23°C)
ニッペ グランセラトップ 2液水性 中塗	各色	つや有り	15kg、4kg	—

#### 適用下塗りおよび中塗り塗料・適用下地

内外壁	適用下塗りおよび中塗り塗料	適用下地
	パーエクトフィラー DANフィラーエポ <sup>※</sup> パーエクトサーフ DANタイル中塗Rホワイト/Sホワイト <sup>※</sup> タイルラック1液 EPO-Sベース ファイン浸透シーラー	●モルタル面 ●窯業系サイディングボード ●コンクリート面 ●ALCパネル面 ●各種旧塗膜の上
	水性パーエクトシーラー ファインパーエクトシーラー 1液ファインパーエクトシーラー	●無機やフッ素下地の高意匠サイディングボード (従来のモルタル、コンクリート面などにも塗装できます)
	パーエクトプライマー	●付帯金属面 ●FRP ●木部 ●亜鉛めっき ●アルミ ●各種旧塗膜の上

※つや消しは不可

#### 乾燥時間

	5~10°C	23°C	30°C
塗り重ね乾燥(中塗り)	8時間以上	3時間以上	2時間以上

※乾燥時間は目安です。使用量、通風、湿度および素地の状態によって異なります。

## 標準塗装仕様(塗り替え)

### ●モルタル面、コンクリート面の塗り替えなど

塗装工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/m <sup>2</sup> /回)	塗り重ね乾燥時間(23°C)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地改修処理	下地改修処理が必要な場合は、下地調整結果に基づいて、塗装工事前に実施する。						
下地調整	ほこり、汚れを除去した後、サンドペーパー、エウスなどで素地を調整する。						
下塗り	パーフェクトフィラー	1	0.20~0.45 0.50~0.90	4時間以上	水道水	3~8 1~5 2~5	ウールローラー 砂骨ローラー タイルガン
中塗り	グランセラトップ 2液水性 中塗	1	0.14~0.17	3時間以上	水道水	5~10	はけ・ウールローラー・エアレススプレー
上塗り	グランセラトップ 2液水性	1	0.14~0.17	—	水道水	5~10	はけ・ウールローラー・エアレススプレー

### ●サイディングボード、ALCパネル面の塗り替えなど

塗装工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/m <sup>2</sup> /回)	塗り重ね乾燥時間(23°C)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地改修処理	下地改修処理が必要な場合は、下地調整結果に基づいて、塗装工事前に実施する。						
下地調整	ほこり、汚れを除去した後、サンドペーパー、エウスなどで素地を調整する。						
下塗り	パーフェクトサーフ	1	0.20~0.40	3時間以上	水道水	2~5	はけ・ウールローフー
中塗り	グランセラトップ 2液水性 中塗	1	0.14~0.17	3時間以上	水道水	5~10	はけ・ウールローラー・エアレススプレー
上塗り	グランセラトップ 2液水性	1	0.14~0.17	—	水道水	5~10	はけ・ウールローラー・エアレススプレー

※フッ素及び無機コーティングした窓サインディングボードの場合はファインパーカーを用いてください。

※ファインパーカーは夏場(高温下)では、硬化反応が著しく速まるため、中塗りを3日以内に塗り重ねてください。塗り重ね時間を過ぎると、中塗りの密着性が悪くなります。

その場合は、再度下塗りをするか、ペーパーをかけるなどしてください。

※上塗り材と専用中塗り材では、耐候性・低汚染性などに差があります。上塗り材との区別のため、中塗り材の色相は、上塗りのご指定色に対してわずかに淡彩側にずらした共色にて出荷いたします。

※上記の各数値は、すべて標準のものです。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・施工条件によりそれ多少の幅を生じることがあります。

塗料の塗り重ねは所定の塗り重ね乾燥時間をまもってください。(縮み、割れ、乾燥不良、付着不良などが起こります)

※旧塗膜は健全な状態であることを想定しています。

※カタログに記載している内容は一般的な環境下での施工を想定しております。特別な環境が想定される施工現場・部位に塗装される場合は、事前に必ず当社営業までご相談いただけます。

## 施工上の要点と注意事項

※詳細な内容については、各製品の製品使用説明書などにてご確認ください。

### 1.中塗りは必ず専用中塗りをご使用ください。

2.絶えず結露が発生するような用途、場所での使用は避けてください。著しい結露が発生する場所では、塗料中の水溶成分が表面に溶出し、粘着物などとなって析出するおそれがあります。著しい結露が予測される場合は、塗装を避けるか、やむを得ず塗装する場合は、溶剤系塗料での塗装をおすすめ致します。

3.蓄熱されやすい建材(軽量モルタル、ALC、窓サインディング、発泡ウレタン使用建材など)を使用した「高断熱型外壁」で、旧塗膜が弹性リシン、弹性スチック、アクリルトップなどの場合、塗り替え段階ですでに旧塗膜が剥離していることがあります。そのまま塗装すると剥離がさらに拡大する可能性がありますので、完全に除去してください。また「高断熱型外壁」に塗装する場合は、蓄熱、水分、下地の状態、塗装環境など複数の条件が重なることで、建材の変形、塗膜の剥離、はく離が生じることがありますので、最寄の営業所などにご相談ください。

4.塗装場所の気温が5°C未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。

5.つや調整品では、塗り継ぎや補修でつやむらが出やすいので、面を切って通して塗装してください。6.過剰希釈をすると本来のつやが発現しないおそれがありますので、規定の希釈量をまもってください。

7.つや調整品は被塗物の形状、素地の状態、膜厚、色相、塗り重ね乾燥時間などにより、実際のつやと若干違って見える場合がありますので、事前に試し塗りをして確認してください。

8.つや調整品は、使用にも塗料液が分離しやすい場合がありますので、適宜かくはんしながらご使用ください。

9.防藻・防カビ効果は、繁殖を抑制するものです。すでに繁殖している場合は、下地処理として除去および殺菌処理をしてから塗装してください。

10.被塗物の構造、部位、塗装仕上げ形状、環境条件などの影響で、本来の低汚染機能が発現されない場合があります。

11.塗装表面を部分修補する際には、硬化剤の入れ忘れにご注意ください。汚染むら発生の原因になります。

12.塗装後、乾燥不十分な状態で降雨結露などがある場合や、低温、高湿度、通風のない場合には、膨れ、はく離、割れ、白化、シミが発生するおそれがありますので、塗装は避けてください。やむを得ず塗装する場合は、強制換気などで湿気分を飛ばすようにしてください。シミが発生した場合は乾燥後水拭きして除去してください。

13.色相によっては降雨、結露によってぬれ色になる場合がありますが、乾燥すると元に戻ります。

14.乾燥後の塗膜に付いた汚れは、シンナーなどの溶剤では拭かず、せっけん水で洗浄してください。

15.スプレーノズルの先端は、ときどき水洗いをしてください。作業効率の低下および塗りむらの原因になります。

16.乾燥条件によっては塗膜表面に粘着を感じることがあります、時間とともになくなります。

17.反応硬化タイプの塗料のため、使用後のはけなどはできるだけ早く水で洗浄してください。固まった場合は、すみやかにラッカーサイナーで洗浄してください。

18.硬化剤は湿気で硬化しますので密栓して貯蔵してください。

19.旧塗膜に発生した藻・カビは、洗浄などで必ず除去し、清潔な面としてください。付着阻害をおこすおそれがあります。

20.既存塗膜のはく離箇所は、既存塗膜の塗装仕様でバターン合わせを行ってください。

21.風化面・吸込みのしづい下地では、ニッペ1液ファインパーカー、ニッペ1液ファイン浸透シーラー、ニッペファインパーカーを用いてください。なお、使用量は濡れ感が出るまでを目安とし、素地への吸込み箇所がある場合はその部分を増し塗りしてください。

22.外壁パネル面にもご使用いただけますが、平滑(フラット)面に塗装した場合、塗り継ぎむらなどの仕上がり不良に至る場合がありますのでご注意ください。

23.シーリングの上に、劣化、ひび割れなどの損傷がある場合は、打ち直しをしてください。

24.タイル面の洗浄に使用する薬剤が塗装面に付着すると、変色や早期劣化などを生じることがありますので、この様な場合には薬剤が付着しない様に塗膜表面の養生を行ってください。

25.素地表面のアルカリ度はpH10以下、表面含水率は10%以下(ケット科学社製CH-2型で測定した場合)、または5%以下(ケット科学社製H1500シリーズ:コンクリートレンジで測定した場合)の条件で塗装してください。

26.表面のごみ、ほこり、エプロレッセンス、レイタスなどは除去し、目違い、ジャンカ、コールドジョイントなどは、樹脂入りセメントモルタルで平滑にしてください。

27.ALC面・多孔質下地・コンクリートブロック面など外部の素地において巣穴や段差などがある場合は、樹脂入りセメント系下地調整材(ニッペ1材カチオニフラー、ニッペ1材フライヤー#200)などで処理してください(合成樹脂エマルションバーテの使用は避けてください)。

28.内外壁の新設仕様の場合は、必ず下塗りにシーラーを塗装してください。

29.材齢の若いコンクリートなどセメント成分が十分に硬化していない場合、エプロレッセンスが発生するおそれがありますので、溶剤系シーラーをご使用ください。

30.新設の押出成形セメント板、GRC板、フレキシブルボードなどは、下塗り材としてニッペ浸透性シーラー(新)、ニッペ1液ファインパーカー、ニッペファイン浸透シーラーをお使いください。

31.開缶後放置する時は皮が張らないようにポリエチレンシートなどでシールし、保管してください。

32.塗装直後から頻繁に人が触れるようなドアの一部や手すりなどでは、皮脂の影響により塗膜表面の軟化が起こるおそれがあります。必要に応じて保護フレートなどで接触防止を行ってください。

33.塗料液と硬化剤の混合割合は、必ずまもってください。混合割合が不適切な場合、塗膜性能が発現されなかったり、仕上がりや作業性が低下することがあります。

34.屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。

35.塗装時および塗料の取り扱いは、換気を十分にし、火気厳禁にしてください。

36.飛散防止のため必ず養生を行ってください。

37.シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離などの不具合を起こすことがありますので、原則として行わないでください。やむを得ず行う場合は、シーリング材が完全に硬化した後に行うものとし、塗り重ね適合性を確認し、必要な処理を行ってください。また、ニッペブリードオフプライマーを下塗りすることで、可塑剤移行による汚染の低減が図れます。シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、収縮割れが起こることがあります。

38.笠木、天端など長時間水が滞留する個所では塗膜の白化、膨れなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。

39.薄めすぎは覆い力不足、仕上がり不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。

40.上塗りに冴えたイエロー、レッド、ブルー、グリーン系色相を使用する場合は、共色を下塗りしてから塗装してください。なお、特に冴えた色相では、共色を下塗りしても標準の使用量、塗装回数で隠れい出来ない場合があるため、事前に試験施工し、塗装回数でご確認ください。

41.上塗りは1回仕上げですでの原則的な中塗りは共色で塗装してください。特に冴えたイエロー、レッド、ブルー、グリーン系色相を使用する場合は必ず中塗りを共色塗装してください。

42.調色には必ず当社専用の原色をお使いください。

43.濃色彩や冴えた原色の場合は、塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類など接触する可能性のある部位には使用しないでください。なお、状況により常時接触するような個所に使用する場合は、ピュアライトUVプロテクトクリヤーシリーズ(MK/DF/Si)を上塗りに塗装してください。クリヤーのローラー及び刷毛塗装で、下塗り塗膜の再溶解や滲みが発生する場合には、スプレー塗装をしてください。

44.大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの条件を同一にしてください。

45.はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、使用量、表面肌が異なるため若干の色差があります。では、はけ塗りの部分は希釈を少くして塗装してください。

46.ローラー塗りの場合、ローラー一目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がり感が異なって見えることがあります。

47.塗装方法により色相が多少変化する場合がありますので、ローラー塗りはできる限り入り隠で入れてください。

48.汚れ、さざなみにより補修塗りが必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。

49.ローラー、はけなどは、はかの塗料での塗装に使用すると、はじきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でご使用ください。

50.可塑剤が多く含まれる塗料(クロス、塩ビソル鋼板、塩ビラミネート、プラスチック、ゴムパッキン、合成皮革など)への直接塗装はお避けください。また、これらの部材に塗膜が直接触れることがないよう注意ください。

51.平滑仕上げや鏡面仕上げの場合は、素材や素地の状態によって、吸込みや巣穴によるピンホール、凹凸などを防ぐため、ペテ工程や研磨工程が必要になります。

52.塗料は内容物が均一になるようにかくはんしてください。特につや調整品では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、かくはん機を用いて缶底の沈降物を十分にかくはんしてご使用ください。

53.開缶後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。

54.大気中の浮遊鉄粉が多い地域では、この鉄成分が塗膜表面に付着し、塗膜が赤褐色に変色したように見える場合があります。

55.塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。

56.内容物／容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って産業廃棄物として廃棄してください。

57.塗料、塗料容器、塗装工具を廃棄するには、産業廃棄物として処理してください。容器、塗装工具などを洗浄した排水は、そのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、排水処理場などの施設に持ち込むか、産業廃棄物処理業者に処理を依頼してください。

■本カタログ掲載商品の詳細な危険有害性情報や使用上の注意事項等については、安全データシート(SDS)をご参照ください。■本製品は日本国内での使用に限定し、輸出される場合は、事前に相談ください。

## 日本ペイント株式会社

北海道支店 011-370-3101 近畿支店 06-6455-9608  
東北支店 022-232-6711 中国支店 082-281-2180  
関東支店 03-5479-3614 四国支店 0877-56-2346  
北関東信越支店 03-5479-3614 九州支店 092-751-9861  
中部支店 052-461-1960

●本カタログの内容については予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

●本カタログ中の商品名、ロゴマークは、日本ペイントホールディングス株式会社または

日本ペイント株式会社・その他の会社の日本およびその他の国登録商標または商標です。

●Copyright © 2025 NIPPON PAINT Co., Ltd. All rights reserved.

●日本ペイントホームページ <https://www.nipponpaint.co.jp/>

期待耐用年数について

最新情報・お役立ち情報発信中

こちらから  
ご確認ください



日本ペイント  
公式LINE



カタログNo.

NP-D157

AZ251010T

2025年10月現在